令和4年度　日南市立細田小学校　自己評価書 および 学校運営協議会評価書

学校経営ビジョン

学校の教育目標である「自ら学び、進んで実践する児童の育成」を実現するために、「導き、見守り、見届ける教育」を推進し、「学校は楽しいところ　子どもが行きたくなる　笑顔で過ごせる学校」を学校経営ビジョンの指針に掲げ、子どもが「授業がわかる。出来るようになる。認めてもらえる。」ことの実現に取り組む。

評価項目	主な達成手段	判断基準	対象	評価値（満点4）		学校の考察	学校運営協議会委員の意見
確かな学力の向上	◎1　学力向上を目指した授業改善	単元テストの正答率	学校	4.00	3.58	・　国語科と算数科の単元テスト正答率で期待値85点を超える目標は、6学年中のすべての学年が達成でき、昨年度を上回る結果となった。 昨年度から、児童全員にタブレット端末が行き渡り、「ICT機器を活用した指導法の研究」をテーマにして職員研修及び授業改善に取り組んできている。本年度はICT機器の利用はもちろんであるが、教科指導の原点に戻って再度学習指導の在り方を探った研究授業を各自が行った。今後もICT機器の利用を進めるとともに、しっかり教える指導とじっくり考えさせる指導の指導法改善に努め、一層の学力向上を目指していく。 ・　読書量は11月末現在で目標の全校合計3000冊を超えている。学期に1回の読書まつりや家読(いえどく)の日の取組に加え、週1回来校の図書司書との連携や、市図書館の巡回図書室なども功を奏していると思われる。ただ、貸出冊数の目標は達成できたものの、保護者の認識からは家庭での読書習慣が身に付いてないことがうかがえる。家庭での読書習慣の定着を目指していく必要がある。 ・　キャリア教育に関しては、全体的に数値が低いが、前年度の反省を生かしてキャリアパスポートの活用も進めてきている。児童の意識に対して保護者の意識がかなり低くなったが、質問項目が「お子様は、様々な活動を行うときに、目標やめあてをもって取り組めていますか？」としたことも影響していると思える。	・　自分の家はWI-FI環境があり、子どもはよくタブレットを使っており、そのスキルも上がっていると感じる。ICT機器を利用した教育は、地方の小さな学校でも都市部の学校に負けない何か大きな特徴になり得る可能性を感じる。今後もさらにICT機器を活用した教育に取り組んでいってほしい。 ・　放課後子ども教室でも、子ども達はよく本を読んでいると思う。ただ、宿題をみているときなど、問題文を読み取れない子どもが多くなったと感じる。読書の冊数も大切であるが、文章を読み取る力を伸ばしてほしい。新聞への投稿などで活字への興味関心を高めたり、読書の後に「感想は？」と問うて表現力を伸ばしたりするのも、読解力を伸ばす手立てになるのではないだろうか。 ・　タブレットを利用したデジタルブックなどもあるが、学校では紙の活字のよさに触れさせてほしい。また、学校全体としての目標冊数は達成してるようであるが、個人差が大きいのではないか。読書量の個人差への実態にも対応してほしい。
		授業が分かりやすいと思う児童の認識	児童	3.73			
		学力が身に付いているという保護者の認識	保護者	3.00			
		主題研究の取組状況	学校	3.11	3.32		
		タブレットの操作に慣れているという児童の認識	児童	3.45			
		情報端末機器の扱いに慣れているという保護者の認識	保護者	3.38			
	◎2　読書活動の充実	読書活動が定着しているという認識	学校	3.14	3.35		
		学校図書館の貸し出し冊数状況	児童	4.00			
		本や新聞などの活字を読む習慣ができているという認識	保護者	2.91			
	◎3　キャリア教育の推進	キャリア教育の取組状況	学校	3.00	3.14		
		将来の夢・目標に関する児童の認識と状況	児童	3.55			
		目的意識をもって取り組んでいるという保護者の認識	保護者	2.87			
豊かな心と社会性の育成	◎1　基本的な生活習慣の形成と規範意識の向上	基本的な生活習慣等が定着しているという認識	学校	3.11	3.34	・　基本的生活習慣や規範意識についても、児童と保護者で評価が異なる結果となった。生活習慣の問題のひとつに、スマートフォンやゲーム機等による児童生徒への影響が挙げられる。これは、社会全体の問題ではあるが、昨年度の委員の方のご意見を受けて児童への指導だけでなく保護者への啓発もおこなった。日南警察署の方を招いて、児童と保護者が同じ場で研修を行った。このような家庭での教育力を高める取組を今後も行っていく必要がある。 ・　思いやりの心については、学校・児童・保護者ともに良い結果となった。いじめや不登校について児童アンケートや教育相談を行いながら、早期発見や早期対応の取組を行っている。児童同士のトラブルもあるものの、他の子と優しく接することができる児童は多い。今年度は昨年度以上に外部機関との連携を進めて問題のある児童の対応にあたってきた。次年度も、根気強く継続して支援を行っていく。 ・　少ない児童数ながらよく清掃活動に取り組めている。高学年が手本となる、縦割り清掃活動による効果が出ている。家庭での環境美化の取組ができるよう啓発を進めていく必要がある。	・　ICT機器を利用した教育は進めていってほしいが、トラブルは心配である。ネットトラブルへの対応は大人がしっかりと教えていく必要がある。今後も家庭への啓発を進めていってほしい。 運動会では、小さい子どもの手を優しくひいて競技への参加を促す上級生の姿に感動した。思いやりの心が育ってきている子ども達が多いと感じる。 ・　あいさつが良くできていると思っている子どもの割合が高いが、朝の正門や放課後子ども教室の際に、自分から進んで大きな声であいさつができているとは言いがたい。下校前に職員室に向かって大きな声であいさつをする姿に驚きを感じる。先生方にだけでなく地域の方にも自分から進んであいさつができるような手立てを講じてほしい。 ・　学校に足が向かない子ども達に対して、学校が一生懸命対応をしていることがよく分かり感謝する。学校だけでの対応では先生方が疲弊してしまうので、今後も関係機関と連携した対応を進めてほしい。
		進んであいさつをしている児童の認識	児童	3.68			
		学校のきまりを守っているという児童の認識	児童	3.59			
		基本的な生活習慣が定着しているという保護者の認識	保護者	2.96			
	◎2　思いやりの心の醸成	思いやりの心を醸成する活動に努めたかという認識	学校	3.33	3.45		
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという児童の認識	児童	3.50			
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという保護者の認識	保護者	3.52			
	◎3　環境美化意識の向上	清掃時間の児童の取組状況	学校	3.38	3.19		
		清掃時間の児童の認識	児童	3.41			
		環境美化の習慣が身に付いているという保護者の認識	保護者	2.78			
体力向上と健康安全意識の育成	◎1　健康や食に関する意識の向上	健康・食育指導の実施状況	学校	3.00	3.33	・　新型コロナウィルス感染症拡大の影響もあり、児童にも保護者にも感染症を防ぐことに関する関心は高まっている。昨年度課題に挙がった、長期休業中の歯磨き習慣については、家庭への啓発を行い、改善がされつつある。また、スマートフォンの使い方同様に、外部講師を招いて児童と保護者が同じ場で研修を行ったことも良い結果につながった要因のひとつと考えられる。 ・　1回目の体力テストの結果を基に早めに目標を立てさせ、自分の課題に向けての練習を行わせた。自分が立てた目標を上回る児童80%を目指したが、7割弱にとどまった。しかし、目標が高すぎた児童もおり、1回目の記録を上回った児童は8割を超える程度の目標は達成できたと思える。今後も体力向上を目指して児童の実態に合った運動を取り入れていく必要がある。 ・　休み時間や清掃時間の抜き打ち避難訓練を実施するなど、より実践的な避難訓練を行い、児童も危機意識をもって取り組む姿が見られた。また、保護者の認識も向上しており、日常での安全行動が身に付きつつある結果であると思える。	第1学習室前の給食関係の掲示が絵や写真などが工夫されておりとてもよい。放課後子ども教室の際にも、子ども達は給食の話をよくしており、献立にも興味を持っているようである。食育は学校だけでなく家庭が担う部分が大きい。今後も家庭への啓発を継続していってほしい。 学校での体力向上への取組はよく行っていただいていると思う。ただ、家庭においてはスポーツ少年団などに通っている子どもと、そうでない子どもとの差が大きくなる。親子で取り組める運動などの啓発を進めてほしい。
		生活習慣の改善	児童	4.00			
		早寝早起き朝ごはん等ができているという保護者の認識	保護者	3.00			
	◎2　体力向上プランの実践を通した体力向上	体力向上プランが機能しているという認識	学校	3.25	3.17		
		体力の向上に努めているという児童の認識	児童	3.00			
		体力の向上の習慣ができているという保護者の認識	保護者	3.26			
	◎3　安全や防災に関する意識の向上	安全指導の取組状況	学校	3.50	3.63		
		安全な行動の仕方が身に付いているという児童の認識	児童	4.00			
		安全な行動の仕方が身に付いているという保護者の認識	保護者	3.39			
社会に開かれた学校づくりの推進	◎1　家庭や地域との連携推進	地域の素材・人材の積極的な活用に努めているという認識	学校	3.33	3.35	・　限られた活動ではあったが、小中合同地域ボランティア活動や、交流グラウンドゴルフ活動といった、地域との連携や地域人材を活用した学習を行えた。地域と学校、どちらにも有意義になる活動をさらに行っていきたい。 ・　学校通信や学級通信、また学校ホームページを通じて、必要な情報の発信は行えた。また、保護者への文書連絡の補完として、電子メールを活用した情報の提供を行い、プリントに電子機器を併用した諸連絡通知は好評であった。また、授業参観および学級懇談の出席率は目標の80%を達成し良好であった。 ・　避難訓練や運動会などの各行事が終わるごとに反省を行ったり、学期末に各校務分掌での反省を行ったりして年度途中でも教育課程の修正を行っている。また、学校運営協議会に全職員が参加するようにし委員の皆様の声をダイレクトに教育課程づくりに反映させるように改善を行ってきている。	11月参観日の際に、民生児童委員にも声を掛けてくださりありがたかった。ただ民生児童委員の参加が少なかったことが残念である。月に1回の定例会を利用して、会長から各自への参加要請ができるので、連絡を密にしていきたい。 交流グラウンドゴルフでは、参加した地域の方が「本当に楽しい」と感想を述べられていた。子ども達にも先生方にも、地域にも有意義になるような活動を今後も増やしてほしい。 細田小だけの問題ではないが、細田地区小中学校の児童生徒数が減少している。特に細田中は深刻である。地域と学校が連携した取組を増やしていく必要がある。
		地域の行事に参加できているという児童の認識	児童	3.73			
		地域の行事に参加できているという保護者の認識	保護者	3.00			
	◎2　家庭や地域との情報共有の推進	学級通信やHPを通じて情報発信に努めているという認識	学校	3.33	3.67		
		参観日や懇談の保護者の出席状況	保護者	4.00			
	◎3　教育課程の充実と改善	教育課程の改善に日々努めているという教師の認識	学校	3.22	3.61		
		家庭や地域の声を生かした教育課程が作成されている関係者の認識	その他	4.00			

次年度の方針

【確かな学力の向上】ICT機器の効果的な活用を一層図ると共に、教科指導の原点に戻り個に応じたきめ細やかな指導を通して、「わかる・できる」まで教える授業改善に努め、地域や家庭との連携を図りながら自ら学ぶ力、他者から学ぶ力を育成する。
【心の教育の充実】豊かな人間性や社会性を育むために、自分も他者もかけがえのない存在であるという人権感覚を身につけさせると共に、社会的自立に向けた規律ある態度の形成のために、地域や家庭と連携を図りながら他者から学ぶ力、社会から学ぶ力を育成する。
【体力向上及び健康・安全、食育の充実】心身共によりよく生きる能力を身に付け実践させるために、日常の保健指導や体育指導に加え、地域や保護者と連携した指導を積極的に取り入れながら自ら学ぶ力、自然から学ぶ力を育成する。
【社会に開かれた学校作りの推進】教育課程のさらなる充実を図りながら、関係機関と積極的に連携し、地域人材や地域素材の活用といった地域との交流を深めることで地域と共にある学校作りにより一層努め、社会から学ぶ力、自然から学ぶ力を育成する。